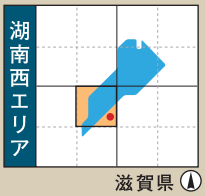
天然記念物
県指定

大日堂の妙蓮およびその池

守山市中町　昭和40年3月26日指定



守山市田中の大日堂にある妙蓮池には、世界的にも珍しい蓮が花を咲かせます。一つの花茎の上に複数の花を咲かせる蓮で、縄文の蓮で名高い大賀一郎博士は、この蓮を「近江妙蓮」と名付けました。慈覚大師が、唐より持ち帰ったという伝承もある名花ですが、明治に一度途絶えてしまいます。しかし、地元の人達の大変な努力が実を結びよみがえり、今年も美しい花を咲かせます。

妙蓮について

妙蓮は、双子葉類の仲間の大型水生植物で、ハス科ハス属に属します。葉や根の形は普通の蓮と同じですが、花が非常に変わった形をしています。

つぼみの時は、常蓮（一般によく見るハス）と同じように、一つの茎に一つの花が付いているように見えますが、150枚前後の外側の花弁を少しずつ散らせながら開花すると、中から2個以上の花が顔を出します。中には、10個以上になるものもあるといわれています。常蓮にある、雌しべを付ける部分の花托や、雄しべがなく、花弁だけが集まった花で、その花弁の数は、2000～5000枚前後にもなります。そして、内側の花弁は、花柄についたままで枯れていきます。

近江妙蓮には、2～12個の花が咲くといわれています。
花の数によってそれぞれに名前が付いています。

2個の花	双頭蓮（そうとうれん）
3個の花	品字蓮（ぼんじれん）
4個の花	田字蓮（でんじれん）
5個の花	五行蓮（ごぎょうれん）
6個の花	天瑞蓮（てんずいれん）
7個の花	陽光蓮（ようこうれん）
8個の花	八面蓮（はちめんれん）
9個の花	上方蓮（じょうほうれん）
10個の花	満仙蓮（まんせんれん）
11個の花	吉祥蓮（きっしょうれん）
12個の花	年光蓮（ねんこうれん）



近江妙蓮（田字蓮）



近江妙蓮（双頭蓮）

［里帰りした近江妙蓮］

近江の妙蓮は、毎年8月頃開花し、その数によってその年の吉凶が占われることから、昔から尊ばれ、田中家と地元民に守られてきました。室町時代には、皇室や将軍などに献上されたという由緒を持っています。

しかし、何百年もの間盛夏に咲き続けた妙蓮が、明治29年より咲かなくなってしまいます。長い間大事にしてきた田中家や地元の人々は悲しみ、再び花を咲かせてくれる日を待ち望んでいました。

そして昭和31年、ハスの研究で知られる大賀一郎博士にお願いして妙蓮の復活に取りかかります。大賀博士の手によって、金沢の持明院にある加賀妙蓮のレンコンが大日池に植えられ、38年、68年振りにその花を咲かせたのです。大賀博士はこの蓮に「近江妙蓮」と名付けました。

大賀博士はその後、近江妙蓮の歴史や伝承を紹介する本を著し、その中で、加賀妙蓮が明治維新の頃に大日池の妙蓮を移植したものであることを明らかにしました。近江妙蓮は、加賀妙蓮の種となり、そこからまた大日池に戻ってきたのです。



妙蓮池

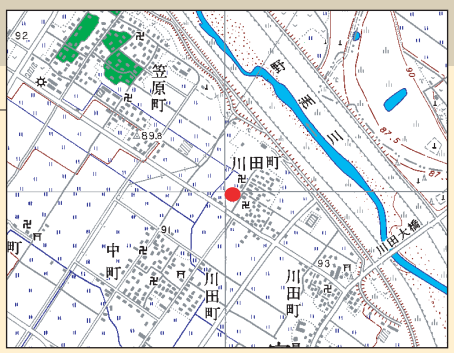
関連する文化財

十二町潟オニバス発生地（富山県氷見市）	葉の直径が3mにも及ぶ大型の蓮で、発生状況が安定しない特性がある。この発生地は、毎年安定した発生を見る地域として重要

もっと深く知りたい

守山市教育委員会　☎077-583-2525　守山市吉身2-5-22

大日堂の妙蓮およびその池へのアクセス　JR琵琶湖線　守山駅下車



【参考文献】〔滋賀縣天然記念物調査報告〕滋賀縣保勝會　〔近江妙蓮〕中川原 正美

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月